

●秋も深まり、色づく公園の木々・・・ 徐々に木々が色づき、公園も落ち着いた雰囲気になってきました。のんびりと季節を楽しみましょう。



①イロハモミジ

●モミジとカエデ、紅葉と黄葉

●紅葉といえばモミジですね。そもそもモミジとはカエデ類の総称のことで、種類もたくさんありますが、日本の代表的な種類といえば「イロハモミジ」です。文字通り鮮やかに紅く色づいて、とても綺麗ですね。公園では目洗い弁天池の周辺や、雪華園などあちこちで見られます。日当たりなど条件によって紅葉の具合に差があるので、色味の違いも楽しめますね。お気に入りの1本を探してみるのも楽しいですよ。



②イタヤカエデ

●同じカエデ属の「イタヤカエデ」は、赤ではなく黄色に黄葉する種類です。虚空蔵様の前に1本大きなものがあります。ちなみに「カエデ」という名前は、葉の形が蛙の手に似ていることから、縮めてカエデとなったそうです。

●葉っぱは「蛙の手」だけど・・・

●カエデ属のような葉を持つ「モミジバフウ」。紅葉葉楓と書き、「楓」の字がつきますが、「フウ」という樹木の種類です。フウも漢字で「楓」と書くため、ややこしいですが、モミジとは異なります。カエデの仲間にはプロペラ状の翼果を付けるのに対し、フウはトゲトゲの集合果を付けるのも特徴です。近くで見てください。



③モミジバフウ



【松の冬支度】
松はこの時期になると、雪の重さから枝を守る「雪吊」や害虫駆除のための「こも巻き」を行います。とはいえ雪はそれほど降りませんし、伝統手法であるこも巻きも、現在はあまり効果がないとされていますので、どちらも本来の目的より、景観目的で行っています。季節の風物詩として、お楽しみください。(⑤雪華園)

●黄葉と共に増す不思議な甘い香りの正体は・・・？

●④の駐車場辺りに漂う甘い香りにお気づきでしょうか？この香りはハートの様な丸い葉が黄葉する「カツラ」から出ています。香りの原因は葉に含まれるマルトールという物質で、初めは他の有機化合物と結合した状態で存在し、黄葉が進むにつれ酵素が作用して、ブドウ糖とマルトールに分解されるため、香りが強くなっていくそうです。マルトール自体は香料や食品添加物としても一般に用いられており、カツラや松の葉に含まれる他、糖類を熱分解したとき(カラメルなど)にも生成されるそうです。カツラの香りはキャラメルに似ているとよく言われますが、似ているというよりも、同じものなんですね。



④カツラ

●紅葉で存在感を増すドウダンツツジ

●普段は生垣として駐車場周りなどで当たり前のように目にしているドウダンツツジですが、この季節は徐々に赤く染まって存在感を増してきます。特に民家園を囲んでいるものは、周囲にある常緑のオトメツバキやチャノキと相まって、より鮮やかに、景色を作り出します。



ドウダンツツジ



⑥民家園周辺



【どんぐりどこかな？】
管理棟窓口で「どんぐりマップ」を配布していますので、お気軽にお声掛けください。

●秋には秋の、季節に応じたいろんな発見や楽しみ方で公園を満喫してください。